

河川空間を活用した地域のさらなる活性化 —砂川遊水地の「都市・地域再生等利用区域」の指定を受けて今後の事業展開について—

札幌開発建設部 滝川河川事務所

○鈴木 応徳
猪股 直紀
片桐 悠太

令和2年11月に砂川遊水地（砂川オアシスパーク）が「都市・地域再生等利用区域」の指定を受けて、河川空間において民間事業者等による営業活動が可能となり、協議会による利活用計画検討、利活用に関する様々な実証実験の実施、「かわまちづくり計画」に基づくハード整備等を行ってきた。現在の利活用状況および今後の民間事業者等による営業活動の推進やまちの賑わい創出に向けた事業展開について報告する。

キーワード：地域活性化、まちづくり、地域交流・振興

1. はじめに

河川敷地の占用については「河川敷地占用許可準則」(「河川敷地の占用許可について」H11.8.5 事務次官通達 以下「準則」という)が定められ、占用主体は原則として市町村などの公共性、公益性を有する者等とされてきた。しかし、営業活動を行う事業者等が河川敷地を利用できるようにすることにより、河川敷地を賑わいのある水辺空間等として積極的に活用したいという要望の高まりを受け、平成23年に準則が一部改正(「河川敷地占用許可準則の一部改正について」H23.3.8 河川局長通知)され、地域の合意を得ることができれば、営業活動を行う民間事業者等による河川敷地の占用が可能となった。(図-1)

砂川オアシスパーク（砂川遊水地）においても、地域の活性化を目的として、「都市・地域再生等利用区域」（以下「特区」という）の指定に向け、「オアシス

パークからゆめまちづくり協議会」（以下「協議会」という）において平成28年度より様々な協議・検討を進め、令和2年11月11日北海道開発局長より特区に指定された。本報告は、その過程や現在の利活用状況と課題、今後の事業展開等について紹介するものである。

2. 砂川遊水地の概要

石狩川中流部の砂川市街地に隣接する砂川遊水地は、洪水調節施設として、昭和62年度に着工、平成7年度に竣工し運用が開始された。（図-2）

周辺に整備されたパークゴルフ場やオートスポーツランドスナガワ等の公園緑地と併せて「砂川オアシスパーク」として地域に親しまれ、遊水地を周回できる管理用通路は散策などで日常的に市民に利用されている。

特徴的な外観を有する遊水地管理棟や、増毛山地を写し込んだ広々とした湖面が癒しの景観を形成し、釣りやヨット、水上バイク、ウィングサーフィン等の水面利用が盛んに行われてる。

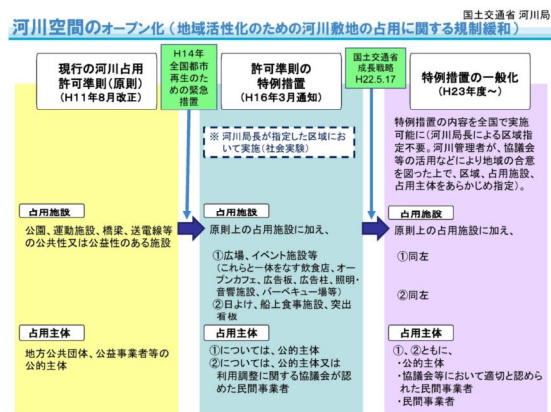


図-1 河川敷地許可準則の改正



图-2 砂川游水地位置图

冬季はワカサギ釣りが楽しめる場所として知られ、シーズン累計で約1万人の来客がある。夏季には「石狩川下覧櫓」や「TIF祭」等の市民団体等による各種イベントがオアシスパーク内で開催され、なかでも多目的広場を活用した「ラブ・リバー砂川夏まつり&砂川納涼花火大会」には全道各地から約2万人の来客があり、こちらも大盛況であった。（写真-1）

一方、平成27年度に砂川SAスマートICが開通し、さらに「北海道子どもの国」やふるさと名物「すながわスイーツ」で知名度が向上した砂川市内にあることも相まって、砂川遊水地管理棟の来館者数は年々増加傾向にあったが、令和元年度以降は新型コロナウイルス感染拡大防止による緊急事態宣言発出の影響で一時的に落ち込み、令和4年度からは徐々に回復しつつある。（図-3）

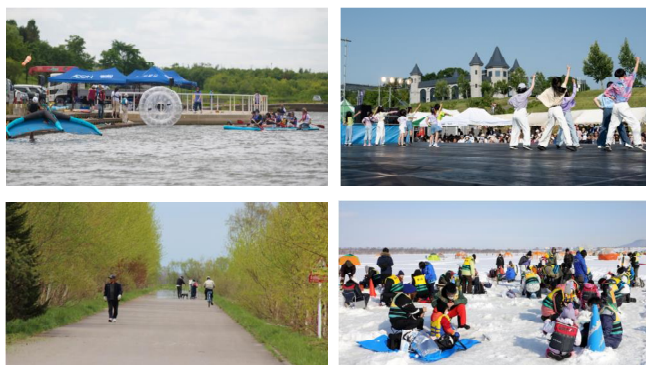


写真-1 砂川遊水地の利用状況



図-3 砂川遊水地管理棟の入館者数の推移（H19～R5）

や管理用通路、多目的広場の環境整備等、主にハード施策を実施し、令和5年度で完了する。

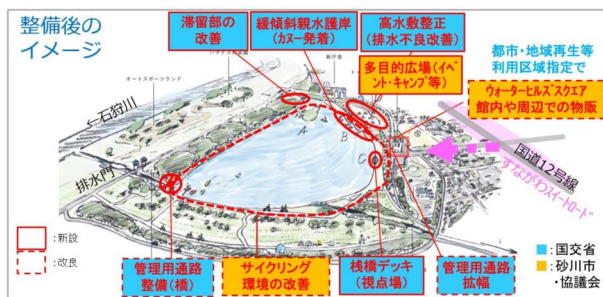


図-4 砂川地区かわまちづくり計画イメージ

3. 砂川地区かわまちづくり計画

砂川市では、情報発信による観光振興や市街地回遊への誘導、地域ブランド「すながわスイーツ」の育成・強化、インバウンドにも対応した広域的観光事業を推進している。

砂川地区かわまちづくり計画とは、砂川オアシスパーク（砂川遊水地）を活用するため、よりアウトドア・スポーツ等のアクティビティが楽しめる空間として親水護岸や管理用通路等の整備を行うとともに、特区指定を受けることによって民間事業者等による営業活動を可能とし、砂川のスイーツや観光情報の発信拠点として整備するものである。（図-4）

この計画に基づき、砂川市では各種イベントの開催、遊水地管理棟でのスイーツを軸とした物販・飲食提供・情報発信、アクティビティの充実等、主にソフト施策を推進する。札幌開発建設部では平成31年度より親水護岸

4. 実証実験の実施

砂川遊水地をより一層活用しようとする機運の高まりを受け、札幌開発建設部は砂川市や地域の農工商・観光関係者、遊水地の利活用団体等とともに「砂川オアシスパーク周辺利活用調整協議会（オアシスパークからゆめまちづくり協議会設立準備会）」（以下、「準備会」という）を平成28年2月に設立した。（図-5）

準備会では、各々が自由に意見を出す場とされ、遊水地を活用した「ゆめまち」づくりに向けたアイデア出しが重ねられた。長期目標としてオートキャンプ場や川の駅等の構想が挙げられた。

これらをつづつ現実のものに近づけるため、平成29年度からは、実際に準備会主催で出店を試みる実証実験が行われた。（表-1）

5. 今後の事業展開

(1) 多目的広場

多目的広場は、広大な面積を持ち、砂川市が都市公園として占有しているが、水はけやアクセスが悪いことからあまり利用されていないことを受け、令和4年度に水はけ対策やアクセス改善の整備を実施した。（写真-3）

今後は、民間事業者が参入することにより多目的広場の維持管理を含めた継続的かつ効果的な利活用の促進や各種イベント誘致を強化して、更なる利用者拡大を期待している。



写真-3 多目的広場の整備後

(2) 利活用構想

砂川オアシスパーク（砂川遊水地）の利活用構想の一つとして、キャンプ場の開設を検討中であり、令和5年11月には有志で近傍にある旧ゴーカート場の緑地に集まり、模擬キャンプを見学した。（写真-4）

一方で、毎年実施している冬季イベントの主軸ともいえるワカサギ釣りを民営化して、安定的な管理や各種レンタルサービスを充実させる等により、観光客の増加や特産品等の販路拡大、既存施設の有効活用促進に寄与する取組も構想の一つとして挙げられている。



写真-4 模擬キャンプ見学の様子

(3) 情報発信の強化

砂川遊水地は、主要国道（国道12号）が近いものの、国道に面していない事もあり、決して知名度が高いわけではない。これまでの来場者アンケート結果によると、実態として札幌市等の砂川市近郊からの来客者は、はじめて訪れるという方が多い。このため、砂川観光協会のホームページや地方のフリーペーパー等からも様々なイベントに対して情報発信がされている。

また、札幌開発建設部においても来客者に対してより砂川遊水地を知ってもらう機会創出の取組として、令和5年度に「砂川遊水地ペーパークラフト」を試作し、「砂川遊水地カード」とともに配布することでPRを行った。（図-5、図-6）

今後は、専用HPの構築や各種SNSを利用するなど、断続的な情報発信の強化を図る必要がある。



図-5 砂川遊水地ペーパークラフト



図-6 砂川遊水地カード

6. まとめ

令和2年11月11日に砂川オアシスパーク（砂川遊水地）が都市・域再生等利用区域に指定された。これにより砂川遊水地で民間事業者等による営業活動が可能となった。

また、かわまちづくりのハード整備は平成31年度より始まり、親水護岸や管理用通路、多目的広場の環境整備等が進められ、今年度で完了する。

ただし、砂川遊水地は洪水調節施設ゆえ出水等により遊水地内に堆積した土砂の撤去や多目的広場の除草等を伴う施設である。

今後も引き続き、砂川市や協議会等の関係機関と連携して、更なる砂川オアシスパーク（砂川遊水地）の利活用に向けた検討の推進や民間事業者に対する誘致、情報発信を強化することでより砂川遊水地の魅力を広めて、賑わいある河川空間の創出に向け支援して行く。

謝辞：本論文の執筆にあたっては、砂川市と日頃から砂川遊水地管理棟の管理を委託している石狩川振興財団の

関係者において、写真や各種イベント情報の提供等、多大な協力をいただいた。ここに厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 井田博也, 菊谷智孝, 秦庸英: 河川空間を活用した地域の活性化 (砂川遊水地の「都市・地域再生等利用区域」の指定に向けて), 第64回 (2020年度) 北海道開発技術研究発表会論文
- 2) 櫻田哲也: 豊かな水と緑に囲われたまちのさらなる活性化 (河川空間「オアシスパーク」の効果的な利活用の推進), 月刊「河川 September 2021」かわまちづくりリレーレポート